

## 6.

## 鬼の住む山 京都府 大 江 山 Walk

・ 大江山の鬼伝説に

2001.8.12.

『Iron Road 鉄の道』のロマンをかきたてて

oeyma.htm by M.Nakanishi



- 6.1. 鬼が住む山 大江山へ 古代 iron road の夢のせて
- 6.2. 鬼の住む山 大江山 walk
- 6.3. 酒吞童子説話と大江山「鬼退治」

8月12日 神戸から車で舞鶴自動車道を通って約2時間弱。お盆の休暇を利用して、あの鬼退治の大江山へ行ってきました。

京都の北 丹波と丹後の境に大江山がある。あの酒天童子の伝説・鬼の住む山である。小さい時から父の故郷丹後へ行くたびに通る道筋にあり、幾度もこの鬼退治伝説を聞かされてきた。

『『鬼』伝説のあるところ『たたら』製鉄遺跡あり』。

『たたら・iron road』探訪をはじめ、一度はきっちり大江山の山中へ入りたいと思ってきた場所である。

この大江山の北側丹後の国は古代大和政権誕生に先立って巨大な古墳が出現し、その後 弥栄遠所遺跡など多くの製鉄遺跡が点在する古代鉄の大王国の地。

大江山に続く丹後の山々(例えば 丹後峰山町の比治山など) には「鬼」伝承と同様「たたら」伝承と関係の深い「羽衣」伝説があり、ここから丹後半島を縦断して日本海に注ぐ竹野川流域には古代遺跡や古い「たたら」遺跡が点在している。

また 大江山に源を発し、丹後半島の付け根岩滝で宮津湾に注ぐ野田川流域にも古代遺跡や製鉄遺跡が点在し、丹後半島のもう一つの古代鉄の王国の根拠地。

一方この大江山の南の丹波側綾部・福知山は「綾部」の名が示すとおり古代大陸からの渡来人が住み着いた根拠地であり、由良川を介して日本海側の若狭・丹後と畿内を結ぶ要衝の地であり、ここにも由良川を支配する古代大王国があったという。

舞鶴道が綾部の街に入る手前の丘をトンネルで突き抜けるがこの丘は今からおよそ1500年前、由良川流域の王の墓として造られた巨大な私市円山古墳が遺跡公園としてきれいに整備されている。直径70m

を超える京都府最大の円墳で被葬者の強大な政治的権を如実にあらわしている。  
 このように大江山の北に広がる丹後は古代日本海側から畿内に至る重要な通商路であり、大陸から日本海を  
 通って日本へやってきた渡来の民・文化の重要な国であったことがうかがえる。

**日本海・丹後      大江山・由良川      丹波 古代製鉄の基地**  
 丹後から都への道は重要な通商路・文化の道そして渡来人の道



綾部私市円山古墳



大江山



丹後 比治山 羽衣伝説の碑

丹後・丹波は古代 大陸から日本海を渡ってきた渡来人たちが畿内へ進む道筋であり、 また、畿内の  
 勢力が古代和鉄の覇権をめぐる伸張してゆく道筋でなかったか。  
 畿内と丹後の国の間に立ちはだかる奥深い大江山。  
 立証されていないが、「古代鉄生産をめぐるの畿内と丹後・丹波の大王国の争いがこの大江山「鬼」  
 伝説を産んだのではないか？」という夢が丹後の羽衣伝説・大江山鬼伝説とともにふくらんでくる。  
 幾度となく綾部から丹後へのこの大江山の山越えの道を通りかかったことはあるものの一度は是非ゆっ  
 くり大江山の山中へ分け入りたいと思いつつ機会を失ってきた。

## 6.1. 鬼が住む山 大江山へ

・ 古代 iron road のロマンをのせて ・



京都府大江町 大江山登山口



第1図 丹後平島内製鉄・製鉄関連遺跡分布

丹後国 古墳・製鉄関連遺跡分布

舞鶴道綾部インターチェンジから由良川沿いの山肌に沿ってすこし戻ったところから大江山・加悦・野田川町の標識に従って山の中に入ってゆく。

あまり高い山ではないが、森の中 幾度となくまがりくねりながら山を登ってゆく。こんなところに人家があるのかと思う奥にも人家がある。山道を約 30 分ほど走ると大江山登山口のところに出る。

いつもはこの山中を走り抜け、大江山を越えると大江山に源を発す 京都府 大江町大江山登山口  
る野田川沿いに丹後側の加悦・野田川の町にでて、海岸沿いの岩滝口へ抜ける。この野田川沿いは古代から開けた土地であり、弥栄町の竹野川沿いととも古代の古墳や製鉄遺跡が分布している古代からの街道筋。今は道の両側から機織の音が響く街道筋。幾度となくこの大江山を越えて丹後へ行った道である。

山深い道ではあるが、古代からの街道筋、古代遺跡・製鉄遺跡の分布から見るとまぎれもない『丹後の国 Iron Road 』。

丹後で本格的な鉄の生産がいつどこでスタートしたかはっきりしませんが、5 世紀頃からこの野田川沿いや竹野川沿いに出現した大型古墳や製鉄遺跡からの鍛冶精錬スラグの発見等からこの流域で鉄の加工鍛冶もしくは精錬までもが始まっていたのではないかと考えられている。特にこの大江山の山懐は丹後の国 古代製鉄発祥の地の可能性がよい。

(弥栄町編古代製鉄と日本文化より)

## 6.2. 鬼の住む山 大江山 walk



大江山 大江山中腹 鬼公園から



鬼瓦モニュメント



鬼の交流博物館  
2001.8.12. 鬼公園にて

由良川の流れから大江山の中へ車を走らせて約 30 分 大江山登山口と書いた標識と鬼のモニュメントが迎えてくれる。本道から別れ、大江山へまっすぐ一本道が続いている。

もっと山奥の薄暗い感じを抱いていたが、非常に明るい谷筋である。この谷に分け入って少しいったところに大江山をバックに大きな鬼瓦のモニュメントがあり、鬼の交流館やロッジほかの野外活動施設がここに集まっている。数年前大江山で開かれた地域博覧会の会場だったところで周辺の山を含め、自然公園としてよく整備され、野鳥の森やキャンプ場がある。そして この広い公園の丘の一角に大江山をバックに酒吞童子ほかの鬼の群像のモニュメントが大きな台座の上に建ちここが鬼の故郷であることを主張している。ものすごい顔をした酒吞童子が京都を指差し茨木童子・星熊童子がそのそばで威嚇している。なんとも明るい。想像と大きな違いである。



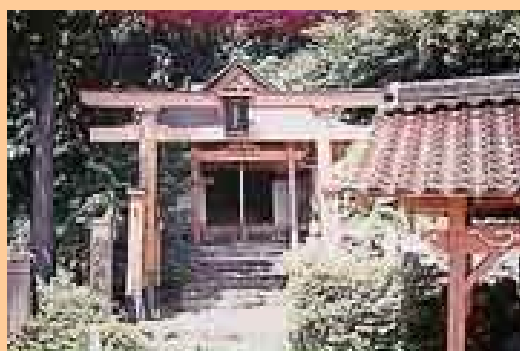


大江山の鬼の群像 モニュメント



大江山林道 入口

大江山へのアプローチ



頂上下の崖 原生林に包まれて建つ  
御嶽稻荷神社



京都を指指し天空をにらむ  
酒呑童子の像

この自然公園から大江山の頂上直下のところにある古い御嶽稻荷神社のところまで林道が伸びている。

この林道は山深い原生林の中を曲がりくねりながら森の中を分け入り、ほぼ山を半周する形で頂上直下の切れ落ちた崖のふちに建つ御嶽稻荷神社で車道が終わる。ここからは「約30分 原生林の中の足場の悪い山道を登れば頂上」と山から下りてきた人に聞いた。

今回は家内と二人サンダル履きできたので、ここで断念。でもこの狭い崖のふちの森の中に立つと崖の向こうには若狭・日本海へと山並みがつづき、はるか下に小さな集落がぼんっと見え、いかにも鬼が居そうな深山の山中。登り口で描いたイメージとは本当 うらはらに低いが鬱蒼とした森に包まれた山々が幾重にも重なって深山である。

また、この林道の途中には 河守鉦山遺跡の標識がみられ、この大江山が鬼伝承とかかわりのある山「たたら」の痕山跡がここにもあると独り納得した次第。



大江山 林道で見つけた河守鉦山遺跡の標識

ものすごい形相をして京都を指差す酒吞童子の像の前に座り込み、大江山を眺めながら、「源頼光の鬼退治」の物語と製鉄の民が描かれた「もののけ姫」の映像をダブらせながら、この地で何が起こったのか 成敗された「鬼」はいったい誰なのか？ 遠い昔に思いをはせた次第である。

今回は かつて丹後の国の製鉄の民が鉄を求め、日本海側から野田川沿いにこの大江山の谷深く分け入り、製鉄をはじめたその道筋を野田川沿いに大江山頂上までたどってみたい。

今回の大江山 walk で長年いだいてきた「鬼退治の大江山」と「たたら 古代製鉄」の基地 丹後の国とこの国が日本形成に役割を果たしたその象徴としての「大江山」がやっと結びついた1日でした。

それにしても 製鉄の民としての鬼伝説の「鬼退治」 出雲のヤマタノオロチ退治 伯耆 鬼退治 吉備桃太郎伝説の基となった「鬼 ウラ」退治 東北 北上の鬼 蝦夷の雄「アルテイ」の征伐 そしてこの丹後の国 大江山の鬼退治 どれもこれもすべて「鬼はだまし討ち」にされている。

古代日本統一が図られていく中で、次々と退治された鬼たちの国。これらの国の勢力の強さがこの「鬼のだまし討ち」に象徴されていると言えてないだろうか・・・

大和政権のみが語られる日本の歴史。日本に縄文の時代 また渡来の民が大挙してやって来た弥生の時代。多くの人達の融合によって日本が形成されたばかりでなく その後融合され消えてしまったとはいえ、その地方地方にも鬼に代表される地方独自の文化があったとの歴史認識は今を考える上でも重要なポイントと思う。

2001.8.12. 京都府 大江山 walk by M. Nakanishi

・ 酒吞童子の像の前で大江山を見上げ  
古代の丹後の国 たたら民に思いをはせながら ・

## 6.3. 大江山 酒吞童子 と 鬼伝説

oeoni.htm by M.Nakanishi



1. 大江山 鬼伝説の系譜
2. 酒吞童子 説話 ・源頼光の鬼退治・
3. 大江山の鬼伝説に  
『Iron Road』の口マンをかきたてて

### 1. 大江山 酒吞童子説話 ・源頼光の鬼退治・



大江山



鬼退治に出掛ける源頼光の一行

大江山には酒吞童子ほか多くの鬼たちが住み、都などに出没し、荒らしまわっておりました。都では鬼による被害が大きいため、鬼退治をすることになり、その任務に源頼光が任命されました。頼光は配下の四天王と呼ばれる渡辺綱・坂田金時・碓井貞光・卜部季武をはじめ、彼らの家来などを引き連れ、大江山に向かいました。

途中、一行は三人の老翁(石清水八幡・住吉明神・熊野権現の化身)に出会い、老人たちから隠れ蓑と神酒を授かりました。隠れ蓑はそれを着ると鬼には姿が見えなくなり、神酒は人が飲めば力がつき、鬼が飲むと神通力を失うというものでした。そして、山伏の姿に変装するとよいと助言しました。そこで頼光らは老翁たちにもらった山伏の衣装に着替え、家来たちを帰らせ、山奥へ分け入って行きました。



やがて一行は川で血の付いた布を洗う老婆に出会いました。老婆は頼光たちを見ると「ここは鬼の里です。見つかる大変ですから、お逃げなさい」と言います。しかし頼光らは「我々はその鬼を退治に来たのだ」と告げ、老婆に、あなたはどのような方なのですか？と問います。すると老婆は涙を流しながら、身の上を語りました。老婆は鬼たちにさらわれた都の貴族の妻。しかし痩せていたため、食べられるのを免れ、鬼の神通力で200年の寿命を与えられ、下働きをして生き長らえているとの事でした。そして老婆は頼光たちに鬼の城への道筋や鬼の城の中の様子などを教えました。

やがて、頼光たちは鬼の城に到着。道に迷ったので泊めて欲しい、と言いました。鬼たちは承知して、一行を中に入れます。すると頼光は泊めてくれるお礼に、と酒を差しだし、鬼たちもそれを喜んで酒盛りが始まりました。大将の酒吞童子の他、四天王の星熊童子・虎熊童子・熊童子・かね童子そして近所の山から来ていた茨木童子。酒盛りが進むに連れ、鬼たちはすっかり上機嫌になりました。やがて夜になると、頼光らは起きだして老婆に聞いていた鬼の寝床に向かい、老翁たちにもらった隠れ蓑をつけて酒吞童子のそばに近寄り、一気に首をはねました。酒吞童子の首ははねられたまま頼光に飛びかかり、その兜にかみついたまま動かなくなりました。

酒吞童子は最期に「おのれ、凶ったか。鬼は決して人をだましたりしないものを」と言ったといひます。

続いて頼光たちは他の鬼たちも次々と倒し全滅させました。そして鬼の亡骸を火葬にすると、山を降りました。途中、老婆と出会った川のところに、人の骨が倒れていました。あの老婆が鬼の神通力がなくなり、寿命により本来の姿に戻ったものでしょう。頼光たちは老婆の骨を丁寧に葬り、都へと帰って行きました。

この酒吞童子説話には その出身を含め、数多くの異説があり、時代時代を反映しつつ、説話として固まっていたと考えられます。

酒吞童子の伝説に関しては下記の文献が基本のようです。

「大江山絵詞」逸翁美術館蔵

15世紀初頭南北朝頃の成立。通称「香取本」。

香取神宮の大宮司家に伝わっていたもの。

「酒伝童子絵巻」サントリー美術館蔵

因幡池田家に伝わっていたもの。16世紀初頭の成立。

「御伽草子」の「酒吞童子」

16世紀末から17世紀初頃の成立。

## 2. 大江山 鬼伝説の系譜

大江山に遺る鬼伝説のうち、最も古いものが8世紀に、国の命令で丹後国が提出した地誌書ともいべき「丹後風土記」の写しの一部といわれる「丹後風土記残缺」に記された陸耳御笠（くがみみのみかさ）の伝説である。

青葉山中にすむ陸耳御笠が、日子坐王の軍勢と由良川筋ではげしく戦い、最後、与謝の大山（現在の大江山）へ逃げこんだ、というものである。この陸耳御笠のことは、「古事記」の崇神天皇の条に、「日子坐王を旦波国へ遣わし玖賀耳之御笠を討った」と記されている。

また、用明天皇の時代というから六世紀の末ごろのこと、河守荘三上ヶ嶽（三上山）に英胡・軽足・土熊に率いられた悪鬼があつまり、人々を苦しめたので、勅命を受けた麻呂子親王が、神仏の加護を受け悪鬼を討ち、世は平穩にもどったというものである。麻呂子親王伝説の関連地は70ヵ所に及ぶといわれている。・「清園寺古縁起」

そして、その後の時代背景とこれら古代の大江山鬼伝説とが結びついて南北朝時代には酒吞童子説話としてかたちづくられて行く。そしてその後、これをもとにして、いろいろな物語がつくられてきた。

酒吞童子の名がはじめて登場するのは、15世紀初頭の「大江山酒天童子絵巻」（逸翁美術館蔵）と言われ、その後中世に入り、能の発達と共に謡曲「大江山」の主人公として、あるいは「御伽草子」の出現により、広く民衆の心の中に入り込んでいった。

酒吞童子をはじめとする鬼は古来からの土着の神の象徴であり、都の人々にとっては悪者であり、仏教や陰陽道などの信仰にとっても敵であり、妖怪であった。

退治される側の酒吞童子にとってみれば、自分たちが昔からすんでいた土地を奪った武将や陰陽師たち、その中心にいる帝こそが極悪人であったといえる。

酒吞童子は最期に「おのれ、凶ったか。鬼は決して人をだましたりしないものを」と言ったといいますが、この酒吞童子の最後の叫びは、土着の神や人々の更には自然そのものが征服されていくことへの哀しい叫び声であったのではないかとされている。

## 3. 酒吞童子に『Iron Road 和鉄の道』を重ねて

先にも示したごとく 大江山周辺の大江山や由良川の流域は古くから渡来人が日本海を渡り住み着いた文化先進の地であり、そしてこの奥深い大江山は都から丹後へ至る交通の要衝であり、難所でもあった。古代 朝鮮半島から日本海を渡り 日本へ持ち込まれた鉄は山陰の諸国で加工され、都に運ばれていった。また、その後製鉄の技法が伝えられるとそれら山陰の諸国は古代鉄の一大生産基地として勢力を進展。この鉄の覇権をめぐる日本統一を勧めつつあった畿内の勢力とこれら鉄の大王国との抗争が鬼伝説を産んだとも考えられ、その一大抗争があった地の一つが、丹後の国であったと想像される。

酒吞童子の祖先がヤマタノオロチを祭る一族から生まれたとする伝説 また酒吞童子の生誕・居所と関係深い土地として伝承されている近江・伊吹 越後・弥彦や丹後・大江山 などは修験道・山の民と深く結びつくばかりでなく、古代製鉄の民と極めて強い関連を持つ土地でもある。

この「鉄の道での覇権争い」が「大江山 鬼伝説」となり、それが、酒吞童子説話へと展開していったと考えることはあながち幻想とも言いがたく、『和鉄・たたら』のロマンを追うものにとっては一層そのロマンをかきたててくれる。

山陰鉄の大王国 奥出雲・伯耆そして丹後 この大陸から日本海側を通過して大和・畿内へと続く山陰の『iron road』で起こった鉄の覇権争いとその土地土地で『鬼伝説』を残し、日本誕生へとかわっていったのではないかと・・・

2001.9.7. 大江山の鬼 に 和鉄の道・遠き古代を夢見つつ